

Ⅱ 石巻市の食をめぐる現状

Ⅱ 石巻市の食をめぐる現状

1 食生活の変化

(1) 乳児期・幼児期（0～5歳）

○幼児期に1日3食食べていない子が約2%いる一方で、ジュース等の甘い飲み物を毎日摂取する子は38.5%と約3人に1人の割合になっています。

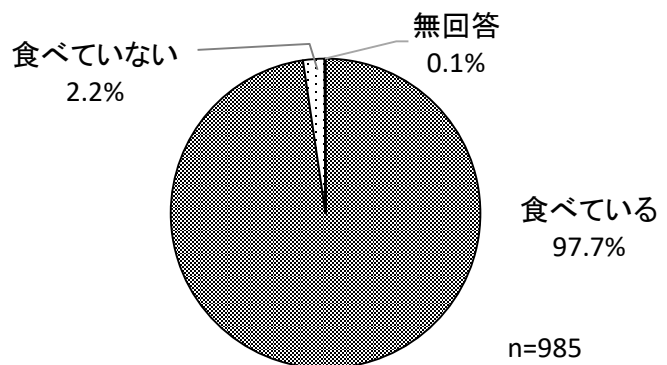
○3歳児健診におけるむし歯有病率、1人平均むし歯数は共に減少傾向にあります。しかし、平成28年度におけるむし歯有病率は27.6%と全国平均より約12%上回り、1人平均むし歯数も1.05本と全国平均より0.51本上回っています。

○3歳児の適正体重児の割合は約9割を占め、肥満傾向児は8.6%となっています。

○「野菜をほとんど食べない」子どもは22.6%と約5人に1人の割合となっています。

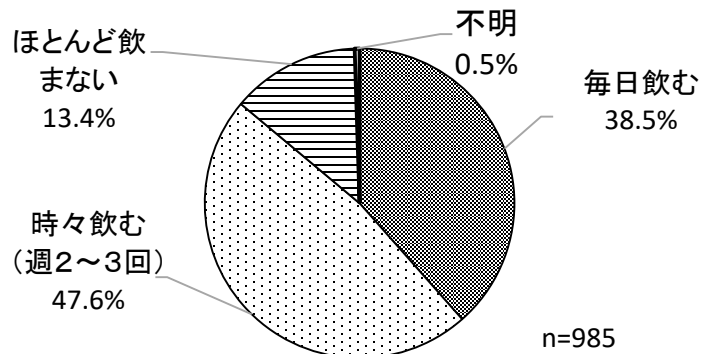
【1日3食食べる子の割合】

●「1日3食食べていますか。」



【甘い飲み物を摂取している割合】

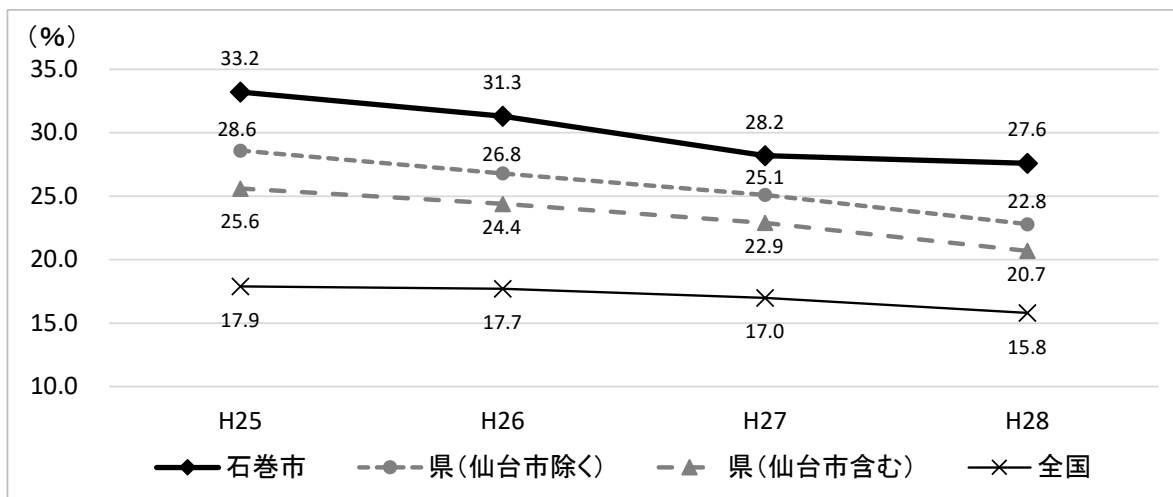
●「ジュースを飲んでいきますか。」



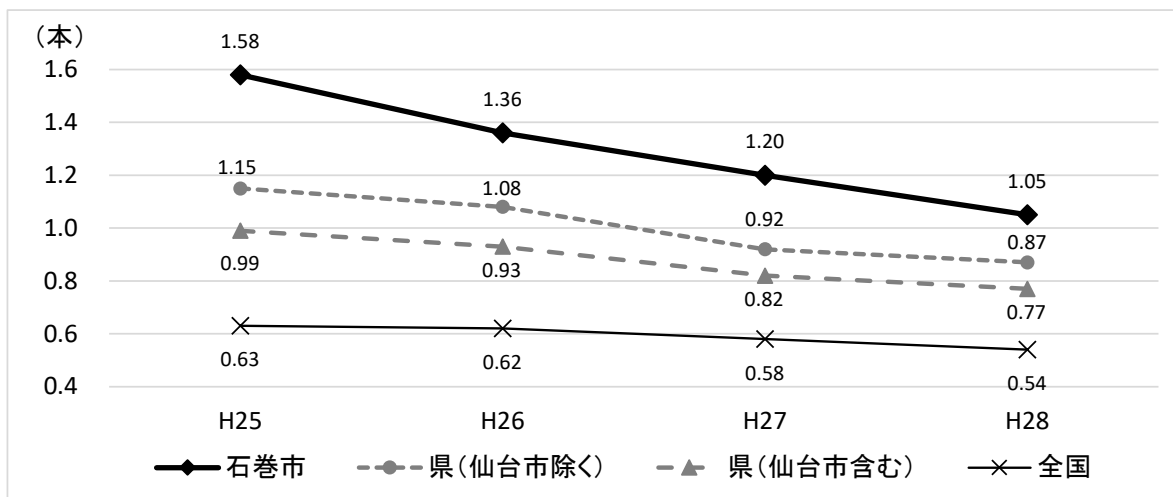
資料：石巻市健康部健康推進課調べ（平成29年度3歳児健診）

※集計は小数点以下第2位を四捨五入していますので、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。

【3歳児むし歯有病率】



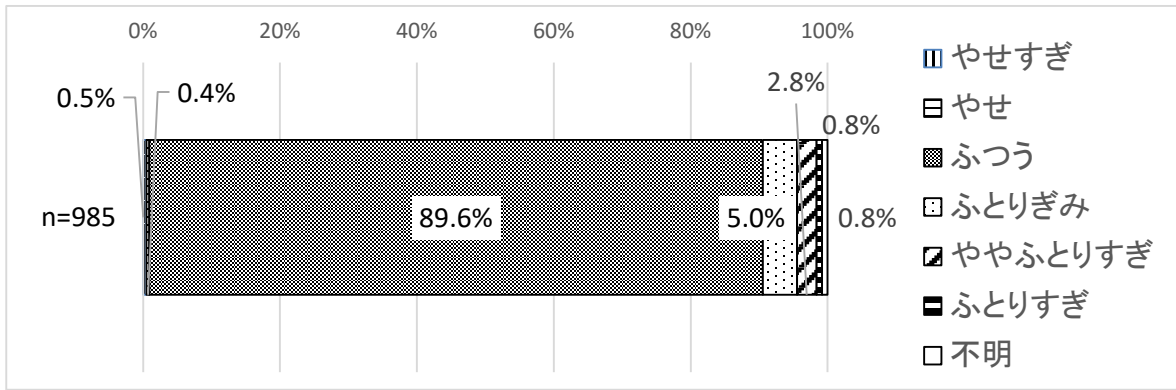
【3歳児1人平均むし歯数(本)】



資料：石巻市健康部健康推進課調べ（平成29年度3歳児健診）

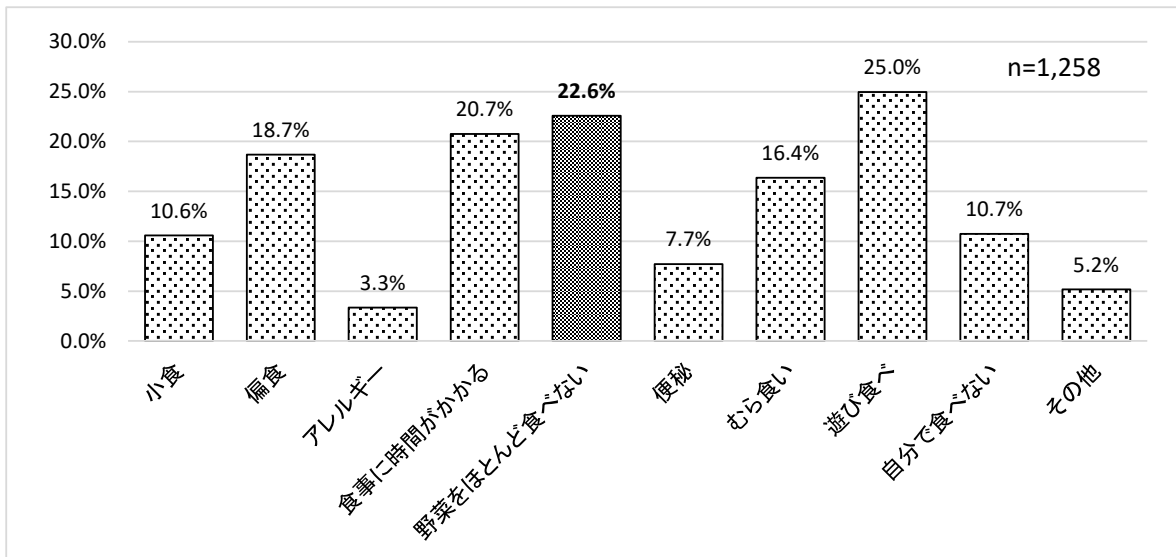


【適正体重児・肥満傾向児の割合】



資料：石巻市健康部健康推進課調べ（平成 29 年度 3 歳児健診）

【食事で困っていること（野菜を食べないと訴える割合）】



資料：石巻市健康部健康推進課調べ（平成 29 年度 3 歳児健診）



(2) 学童期・思春期（6～18歳）

○小中学生ともに朝食を毎日食べる人が前回と比較して若干減少しています。食べない理由は、食欲がない人が約5割、時間がない人が約3割を占めています。また、夜遅く寝る等の生活リズムの乱れも影響していると思われます。（中2で午前12時ごろ以降に寝ると回答した人は28.5%）

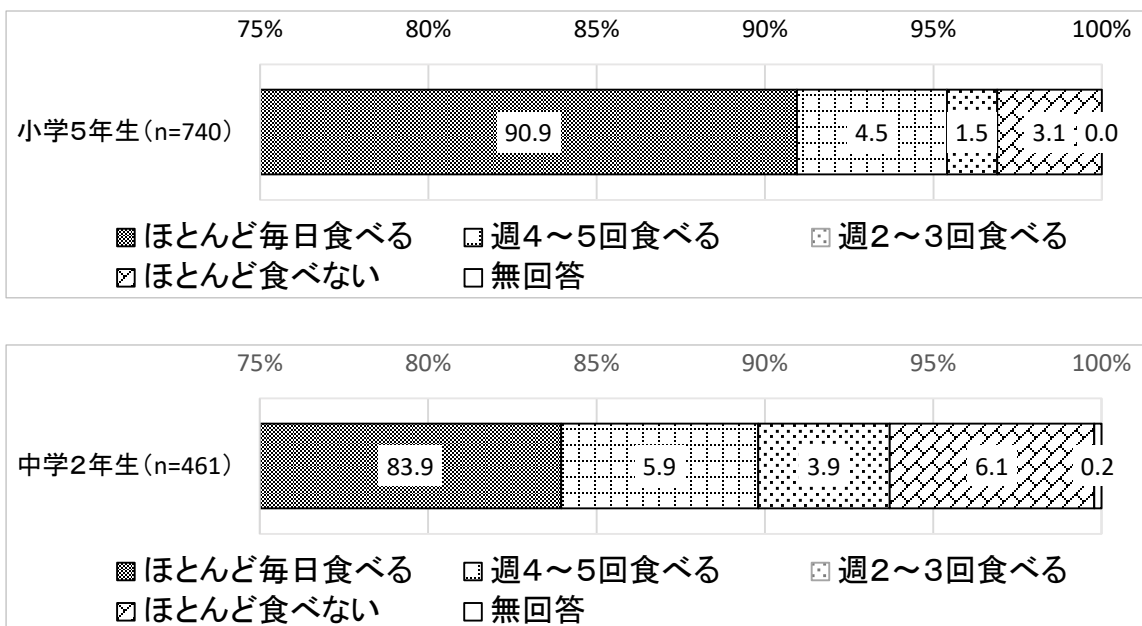
○インスタント食品を毎日1回以上食べる人は、小中学生ともに1割、週2回～5回食べる人は小学生で4割以上、中学生で6割以上を占めています。

○肥満傾向児の割合は、全学年で県や国よりも多く、国と比較すると、男子では小学5年生の差が最も大きく国より10.8%、女子では中学1年生の差が最も大きく8.51%多くなっています。

○12歳児のむし歯保有率、1人平均むし歯本数共に平成26年度に減少しましたが、翌年には増加し、1人平均むし歯本数は、平成28年度では1.97本と全国平均の倍以上となっています。

【朝食摂取状況（小5、中2）】

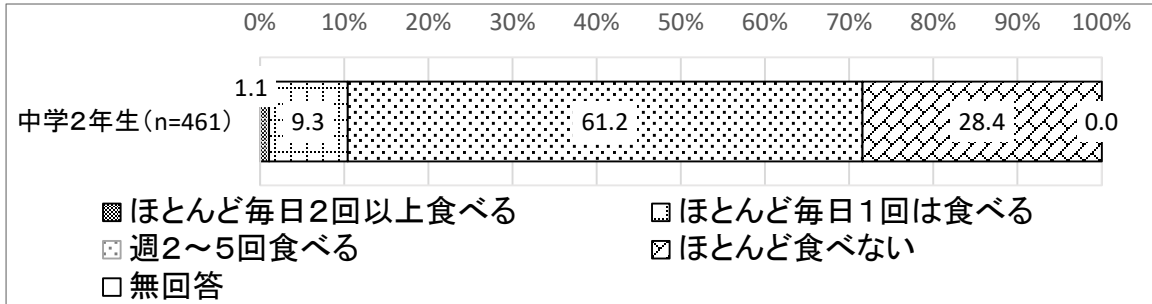
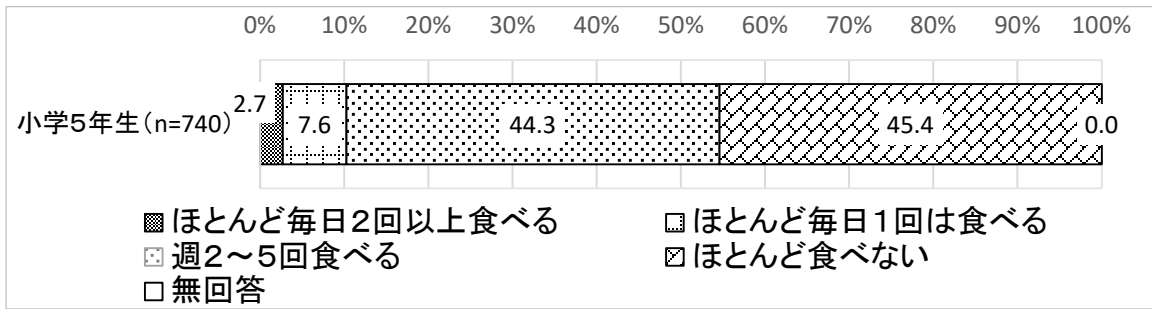
●「あなたは朝食を食べていますか。」



資料：平成29年度石巻市民食育アンケート調査（学校）

【インスタント食品・ファストフードの摂取状況（小5、中2）】

● 「インスタント食品やファストフードをどのくらい食べますか。」

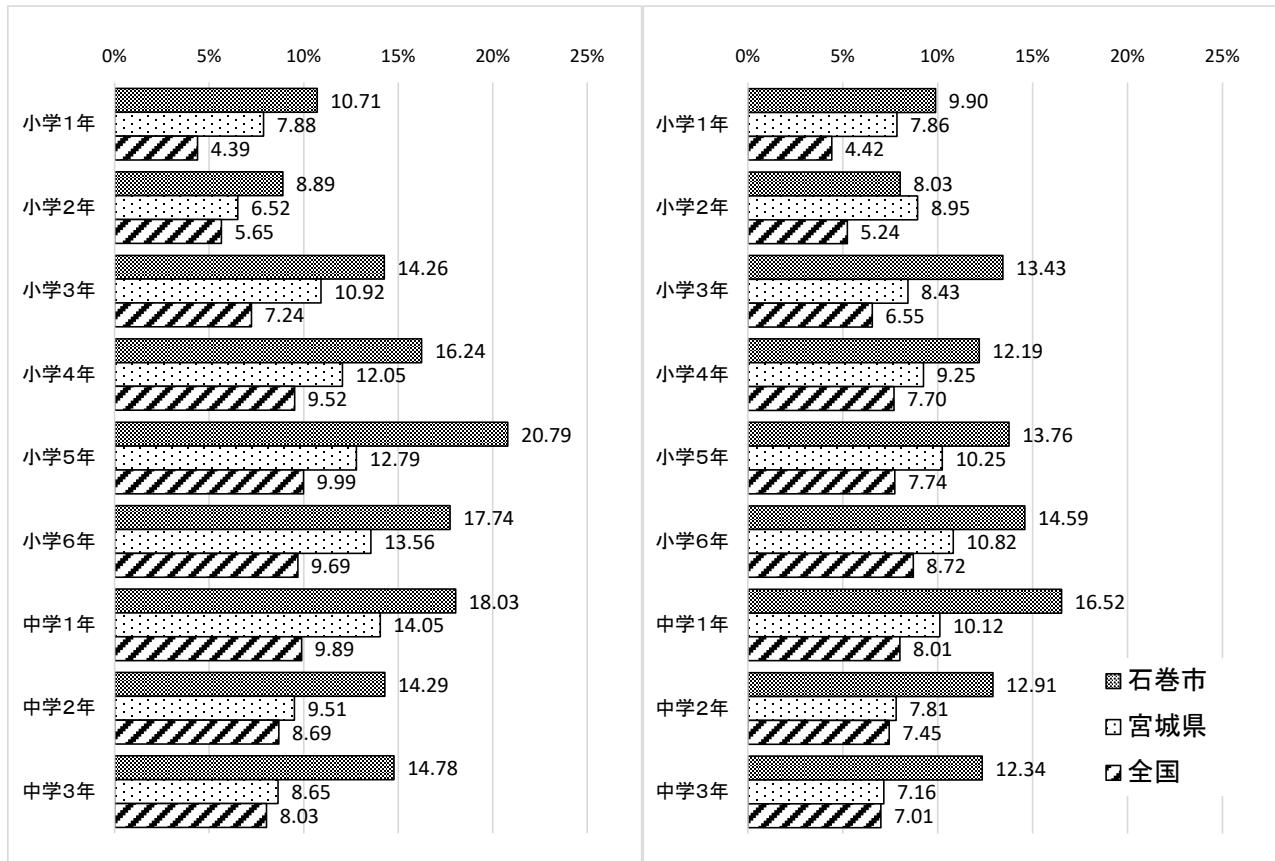


資料：平成 29 年度石巻市民食育アンケート調査（学校）

【肥満傾向児の割合（肥満度 20%以上）】

<男子>

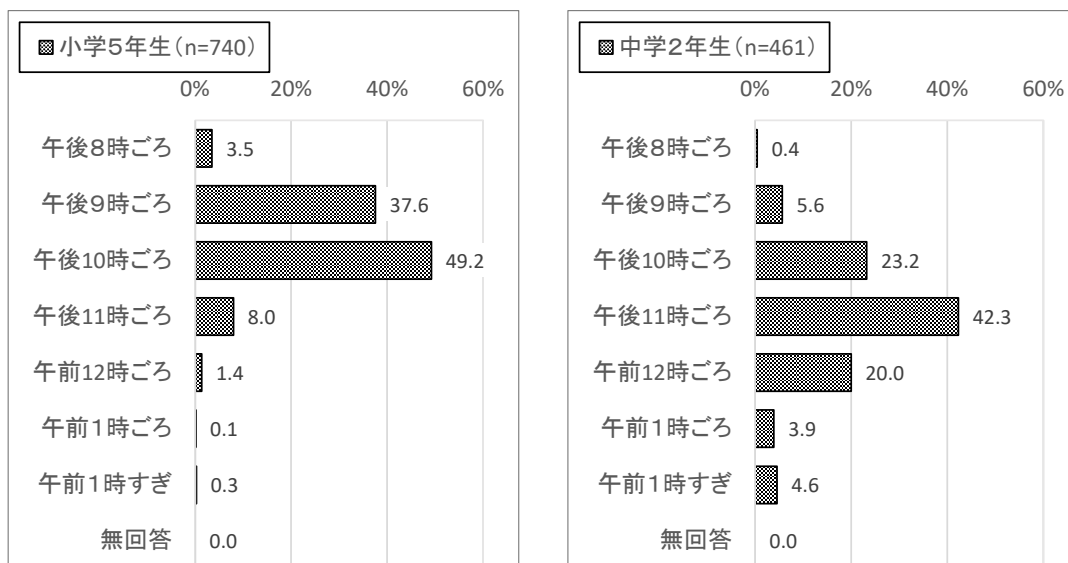
<女子>



資料：石巻市教育委員会調べ（平成 29 年度肥満度調査）

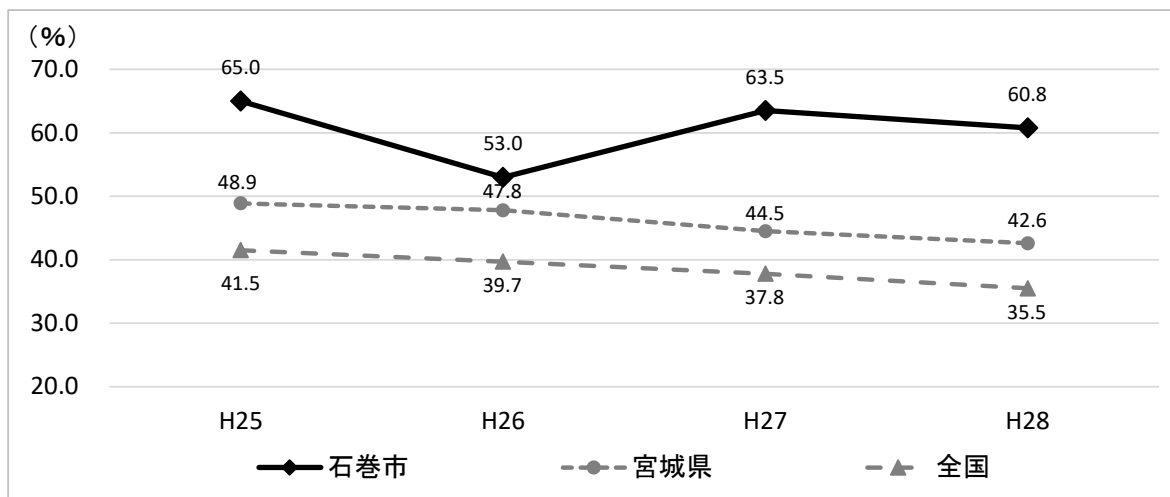
【就寝時間】

●「平日（ふだんの授業のある日）はだいたい夜何時ごろに寝ますか。」

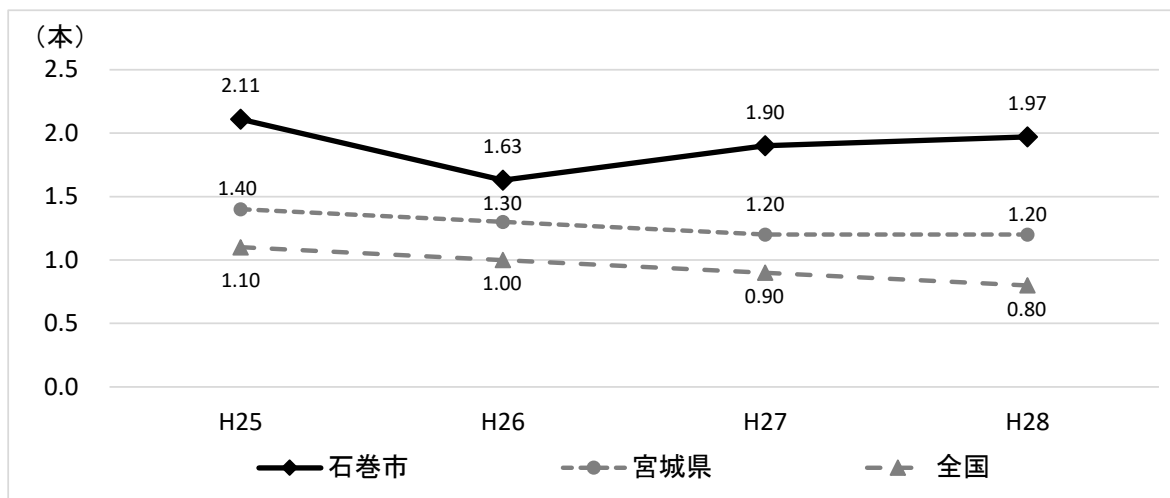


資料：平成 29 年度石巻市民食育アンケート調査（学校）

【12 歳児 むし歯有病率】



【12 歳児 1人平均むし歯本数（DMF指数）】



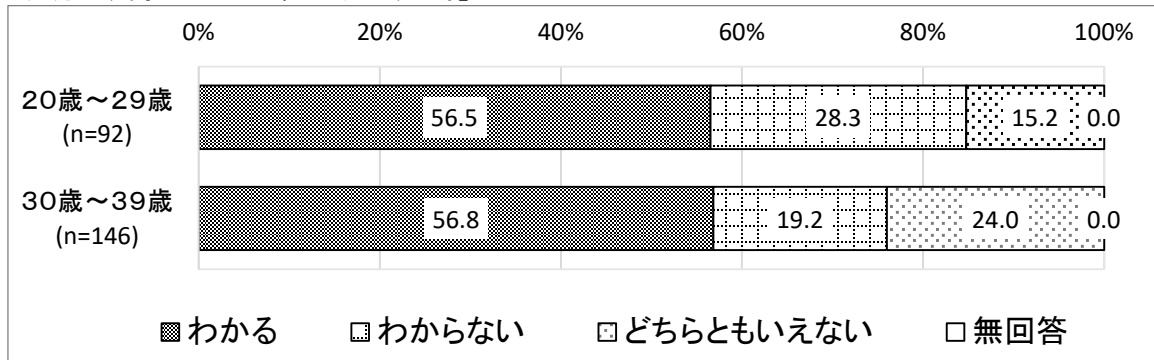
資料：石巻市教育委員会調べ（平成 28 年度歯科健診調査）

(3) 青年期 (19～39 歳)

- 自分の食事の適量がわかる人の割合は6割近くで、壮年期に比べて少なくなっています。
- 外食を利用する人は若い世代が多く、週2回以上は20歳代で7割以上、30歳代では6割以上となっています。
- 野菜や海藻のおかずを毎食食べる人の割合は、20歳代では2割以下と低くなっています。
- 甘い飲み物を毎日飲む人は、20歳代では39.1%と他の世代に比べ多くなっています。
- インスタント食品やファストフードについては、ほとんど食べない人は約4割いる一方で、週2回以上食べている人は6割近くいます。
- 麺類の汁を飲む人は男性に多く、青年期の男性ですべて飲む人は20歳代で25.8%、30歳代で22.7%と多くなっています。(女性20歳代は6.6%、30歳代は5.0%)

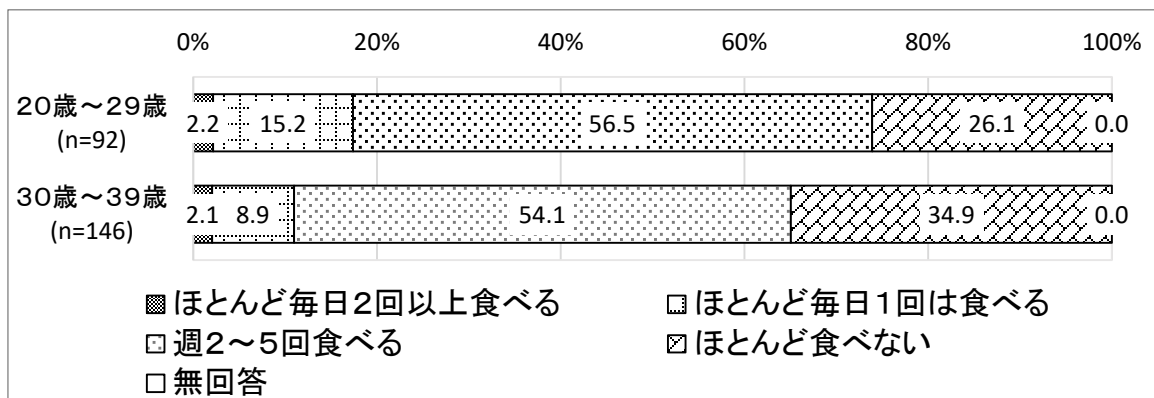
【自分の食事の適量がわかる人の割合】

●「自分の食事の適量がわかりますか。」



【外食状況】

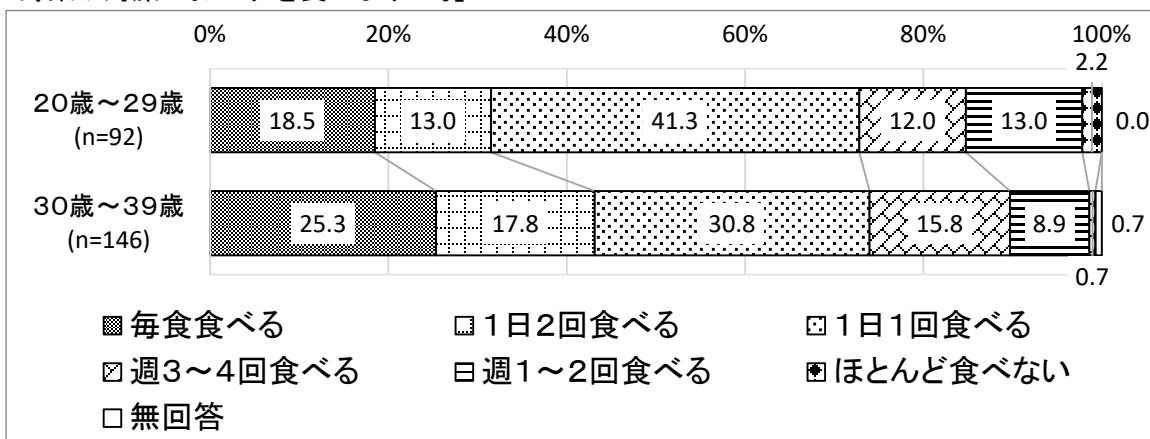
●「外食（市販の弁当や惣菜などの利用も含む）をどのくらい食べますか。」



資料：平成29年度石巻市民食育アンケート調査

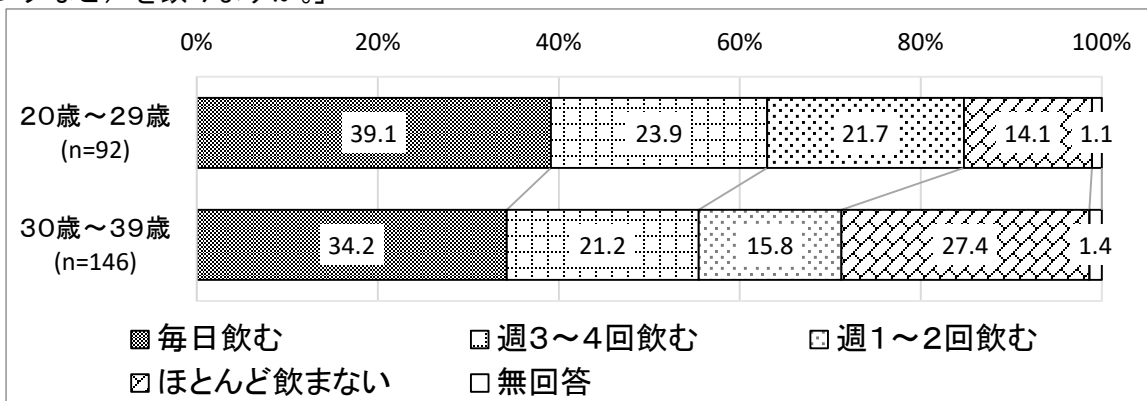
【野菜や海藻を毎食食べる人の割合】

● 「野菜や海藻のおかずを食べますか。」



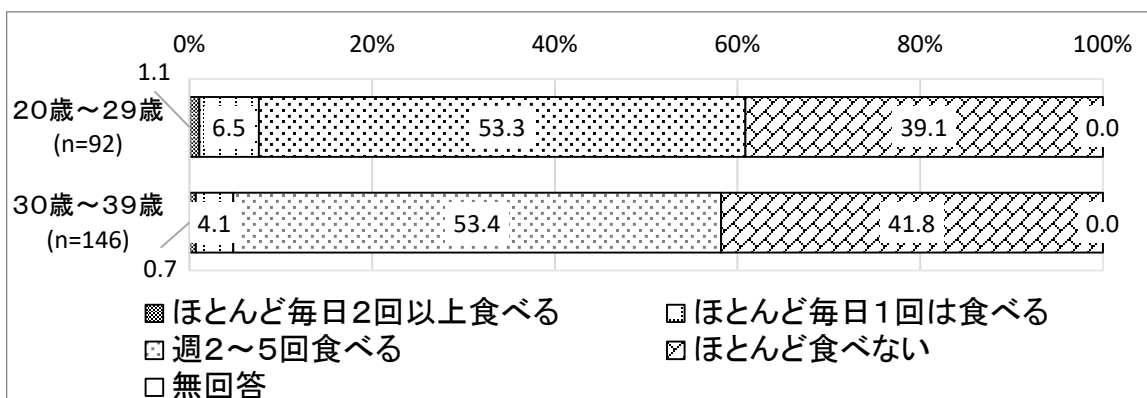
【甘い飲み物を摂取している割合】

● 「水・お茶類以外の甘い飲み物（たとえば清涼飲料水、スポーツドリンク、缶コーヒー、栄養ドリンクなど）を飲みますか。」



【インスタント食品やファストフードを食べる割合】

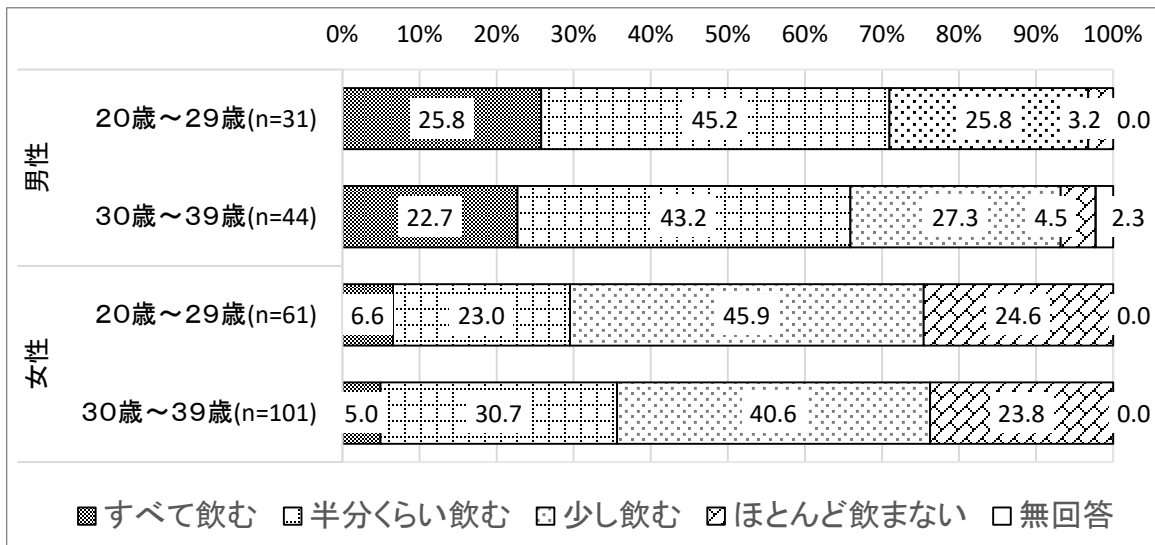
● 「インスタント食品やファストフード（ハンバーガー、牛丼、コンビニのから揚げなど）をどのくらい食べますか。」



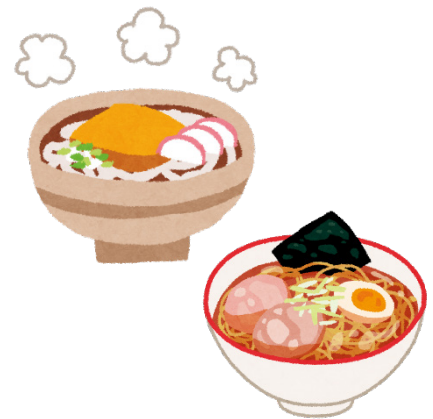
資料：平成29年度石巻市民食育アンケート調査

【麺類の汁をすべて飲む割合】

● 麺類の汁を飲みますか。



資料：平成 29 年度石巻市民食育アンケート調査

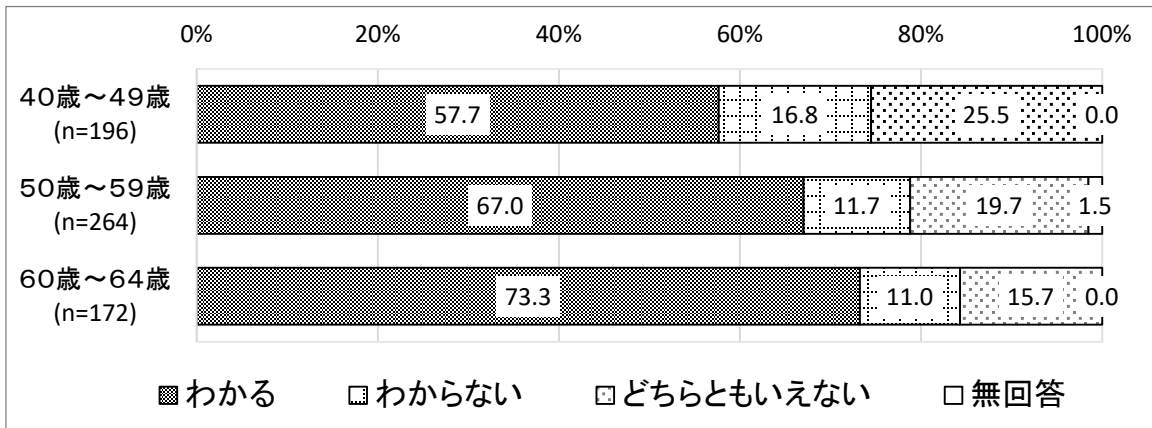


(4) 壮年期 (40～64 歳)

- 自分の食事の適量がわかる人の割合は、世代が上がるにつれて増え、60 歳～64 歳では7割以上になっています。
- 外食を利用する人は若い世代が多く、週2回以上は40 歳代では6割以上、60 歳～64 歳では5割以下となっています。
- 野菜や海藻のおかずを毎食食べる人の割合は、40 歳代と50 歳代では、1日1回の摂取が最も多く、60 歳～64 歳では1日2回が最も多くなっています。
- 甘い飲み物を毎日飲む人は、世代が上がるにつれて減少し、60 歳～64 歳では25.0%と4人に1人の割合になっています。
- 肥満者の割合は県内で13番目に多く、32.7%となっています。
- インスタント食品やファストフードを食べる人は、世代が上がるにつれて減少し、60 歳～64 歳ではほとんど食べない人は64.0%となっています。
- 麺類の汁を飲む人は男性に多く、男性50 歳代では35.4%、男性60 歳～64 歳でも22.2%と2割以上になっています。(女性は5.4～6.0%)

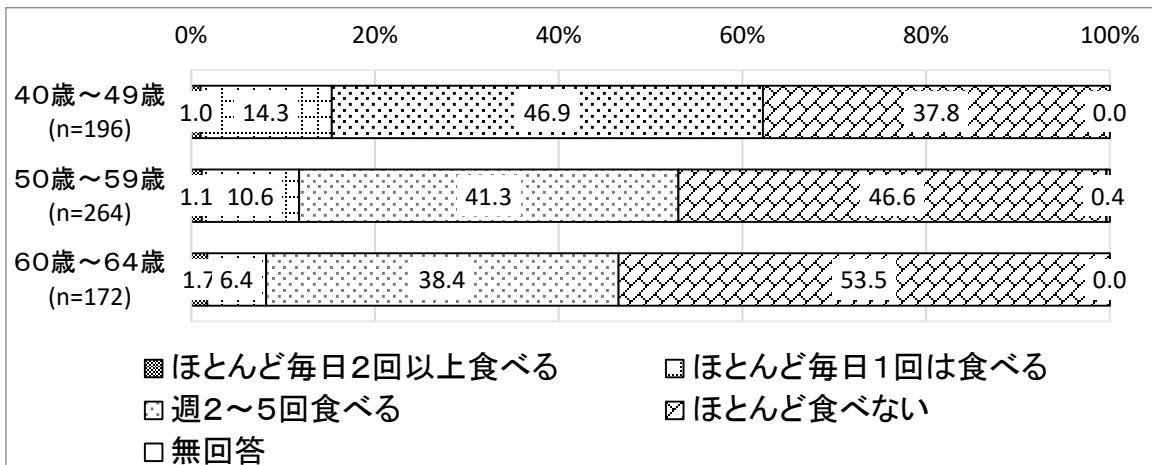
【自分の食事の適量がわかる人の割合】

●「自分の食事の適量がわかりますか。」



【外食状況】

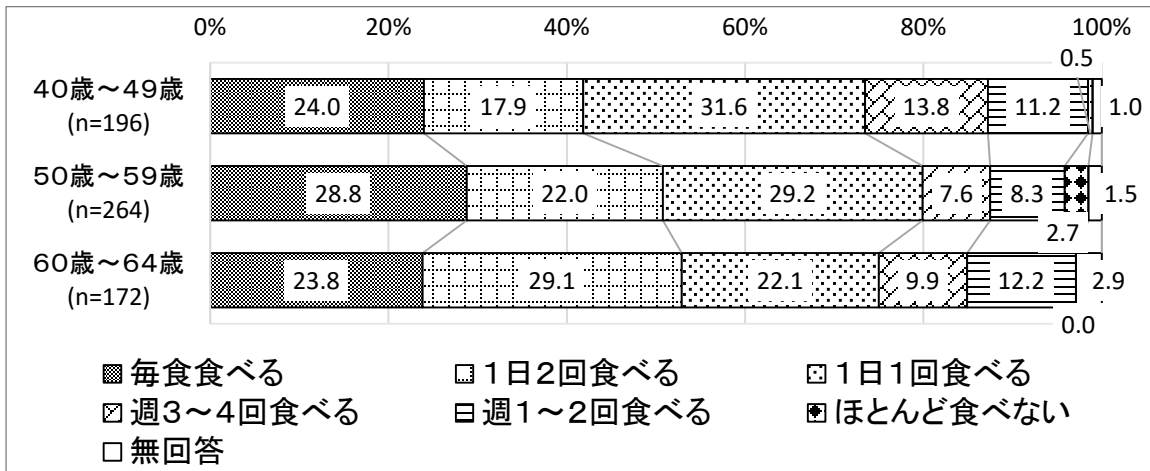
●「外食（市販の弁当や惣菜などの利用も含む）をどのくらい食べますか。」



資料：平成29年度石巻市民食育アンケート調査

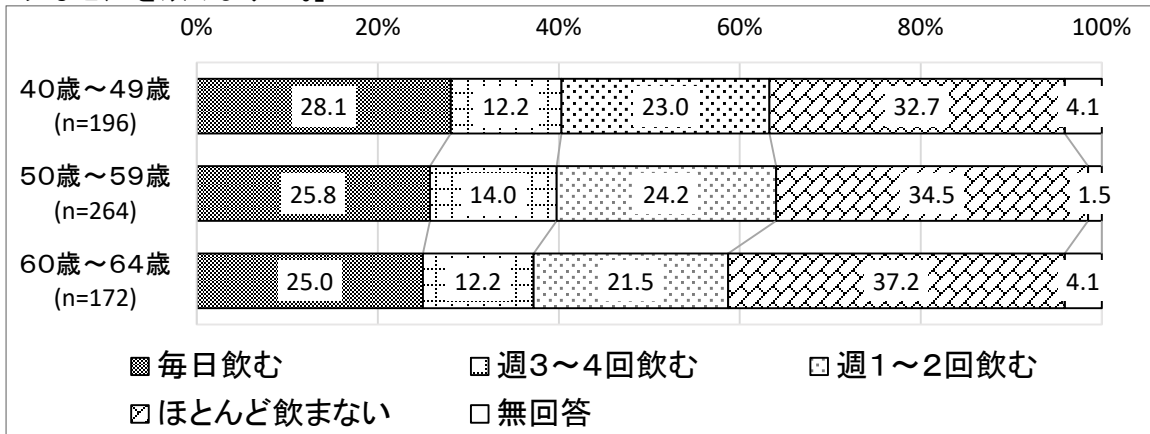
【野菜や海藻を毎食食べる人の割合】

●「野菜や海藻のおかずを食べますか。」



【甘い飲み物を摂取している割合】

●「水・お茶類以外の甘い飲み物（たとえば清涼飲料水、スポーツドリンク、缶コーヒー、栄養ドリンクなど）を飲みますか。」



資料：平成29年度石巻市民食育アンケート調査

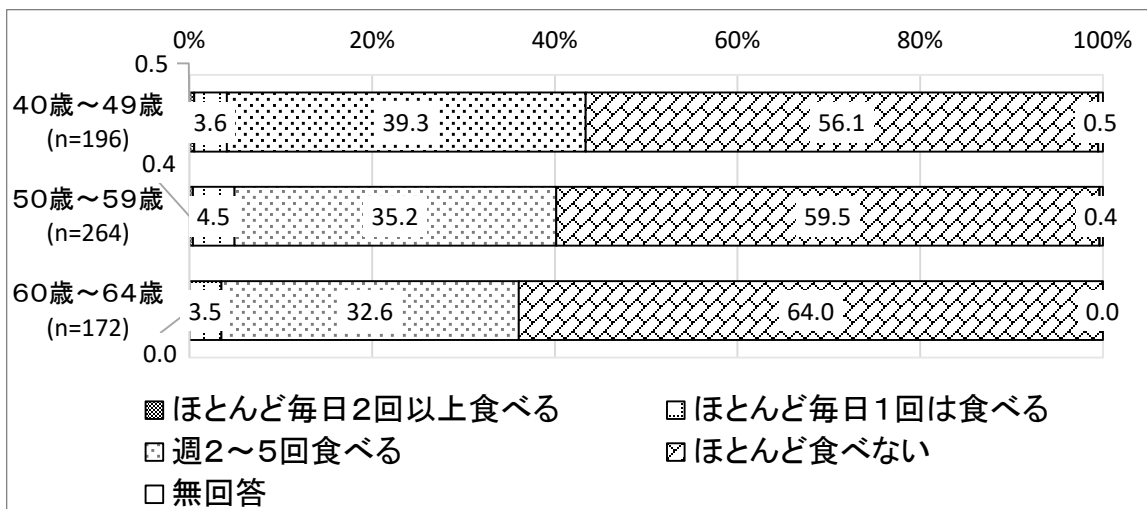
【肥満者の割合】

保険者名	BMI 25以上	順位 (位)
	(%)	
富谷町	25.7	35
仙台市	26.3	34
柴田町	27.1	33
利府町	27.9	32
松島町	29.1	31
市町村計	29.2	
名取市	29.3	30
大河原町	29.4	28
村田町	29.4	28
気仙沼市	29.8	27
塩竈市	29.9	26
石巻市	32.7	13

資料：平成28年度国民保健団体連合会法定報告

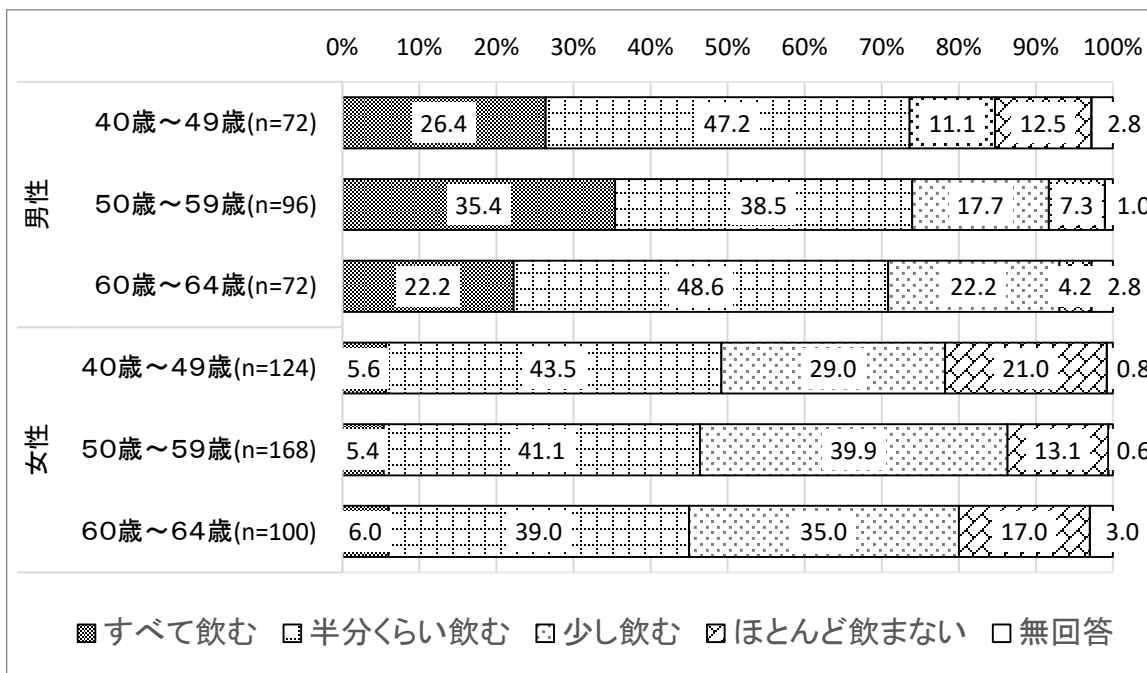
【インスタント食品やファストフードを食べる割合】

● 「インスタント食品やファストフード（ハンバーガー、牛丼、コンビニのから揚げなど）をどのくらい食べますか。」



【麺類の汁をすべて飲む割合】

● 「麺類の汁を飲みますか。」



資料：平成29年度石巻市民食育アンケート調査

2 食を取り巻く環境の変化

(1) 食文化

○小学生の孤食割合は、朝食では60.5%、夕食は8.5%です。中学生の孤食割合は、朝食では70.9%、夕食は15.2%です。

○家族・友人との食事頻度は、「ほとんど毎日」は全体では74.5%となっていますが、20歳代では「ほとんど毎日」の割合は65.2%と他の年代に比べてやや低くなっています。

○郷土料理を食べている人の割合は、若い世代ほど低くなっています。

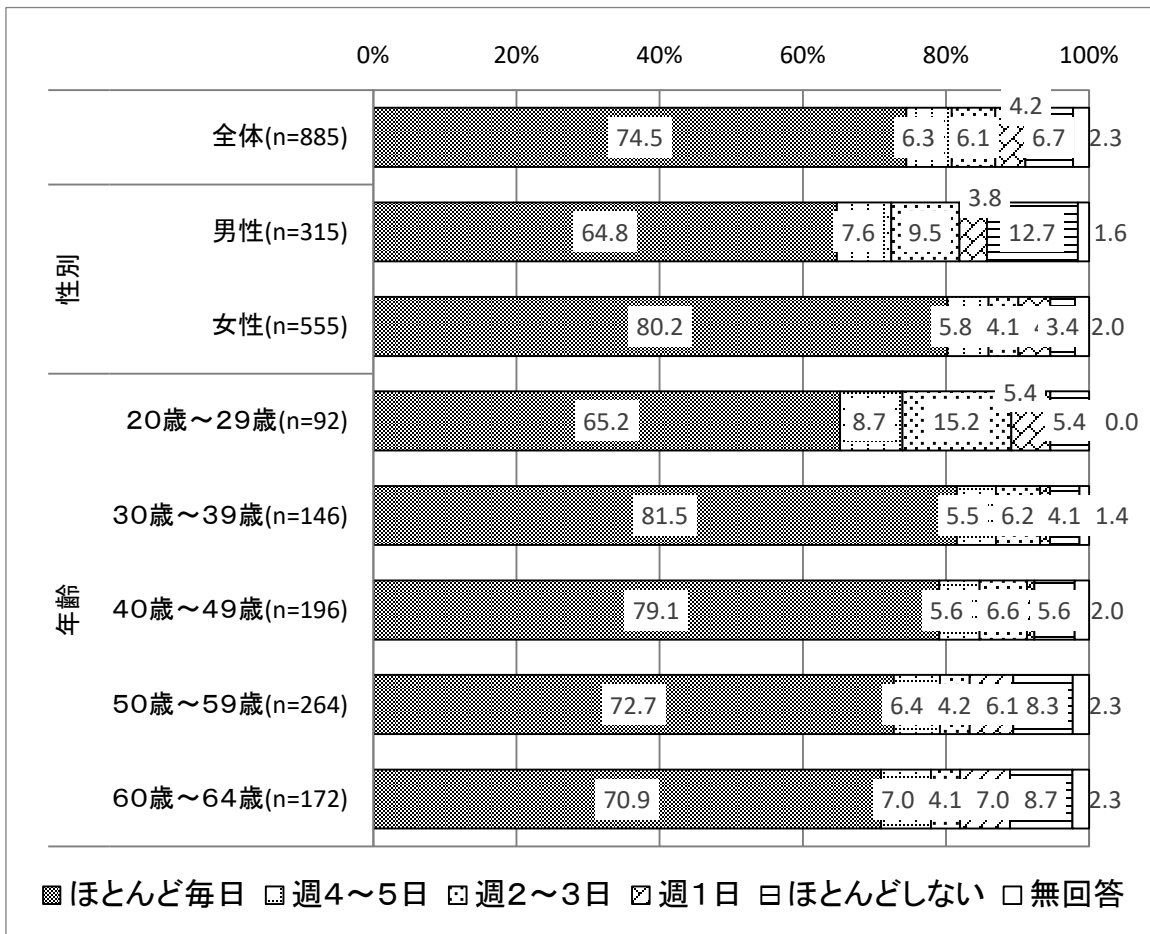
【小・中学生の孤食の割合】

- 「朝食、夕食をだれといっしょに食べる人が多いですか。」

「ひとりで食べる」または「兄弟姉妹と食べる」		
	朝食をとる割合	夕食をとる割合
小学5年生	60.5%	8.5%
中学2年生	70.9%	15.2%

【家族や友人と週1回以上食事をする人の割合】

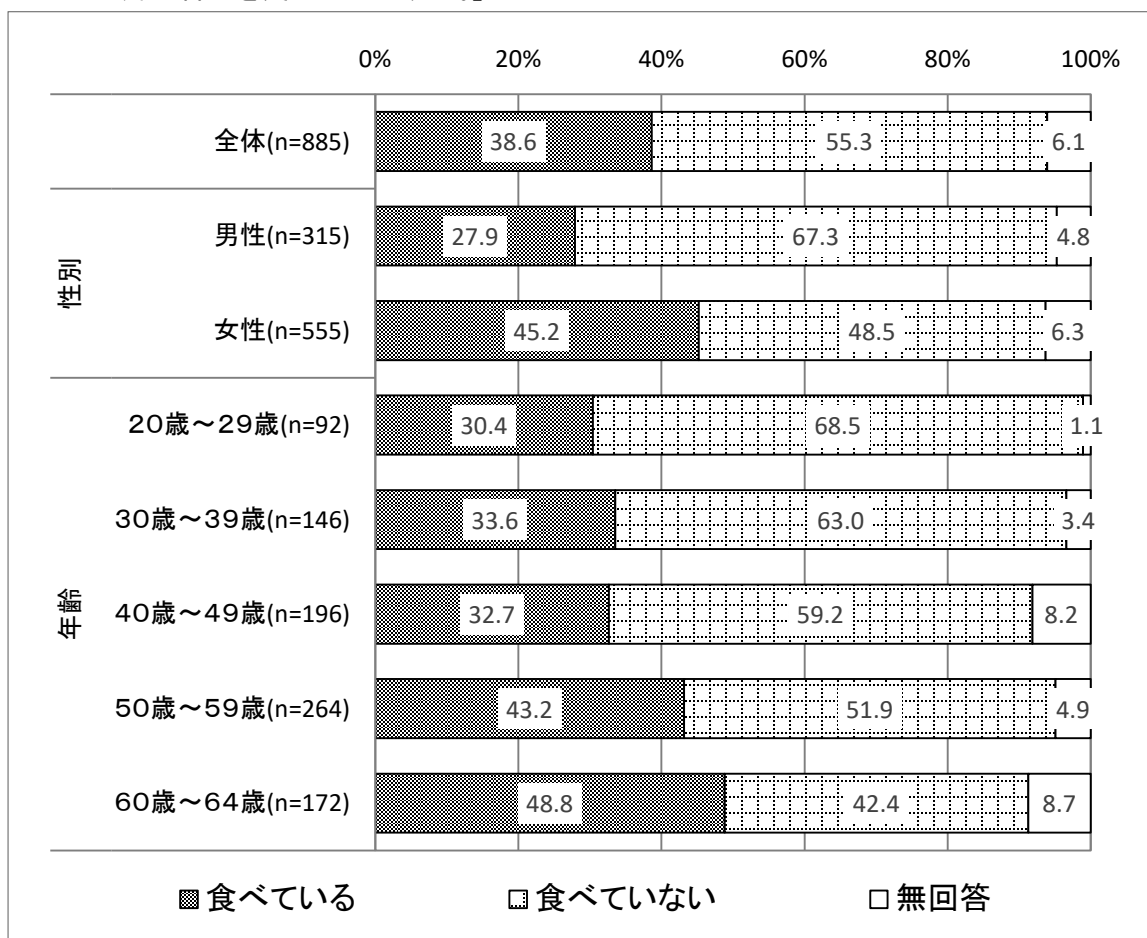
- 「家族や友人との食事を週何日していますか。」



資料：平成29年度石巻市民食育アンケート調査

【郷土料理を食べている人の割合】

● 「地元の郷土料理を食べていますか。」



資料：平成 29 年度石巻市民食育アンケート調査

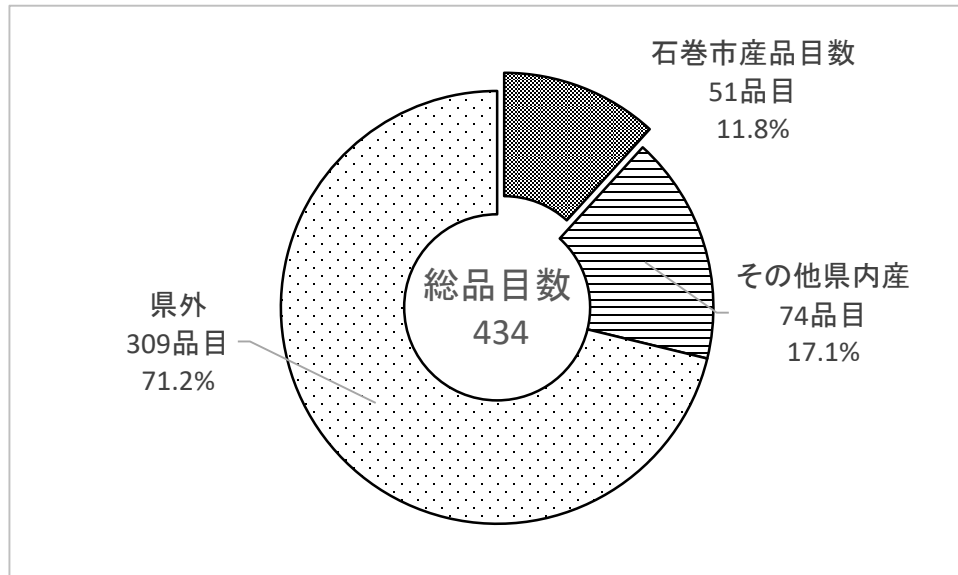


(2) 地産地消の取組

○学校給食で使用した県内産の野菜の活用割合は 28.9%で、そのうち石巻産の活用割合は 11.8%です。

○購入時に産地表示を見ている人は、「いつも見て購入している」「ときどき見て購入している」を合わせた、意識して『見て購入している』人は 76.3%と 4 人に 3 人の割合です。

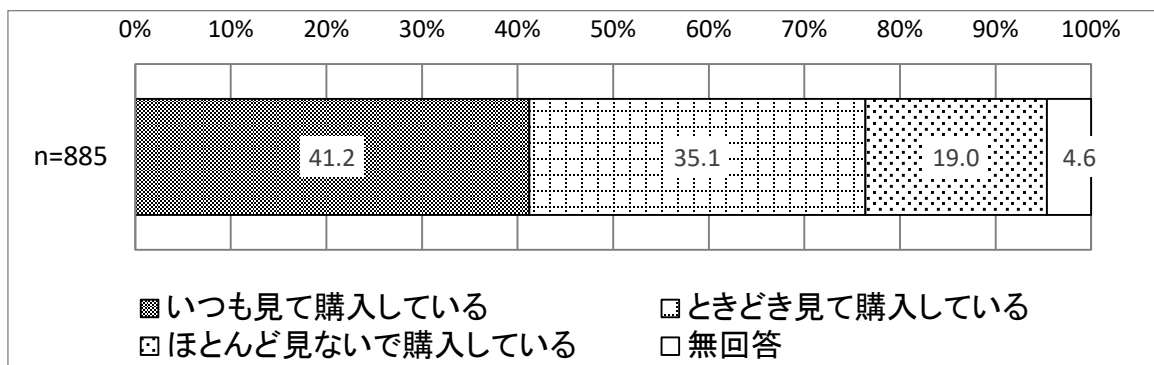
【学校給食に使用した農産物の食品数のうち地場産物の使用割合】



資料：宮城県地場産物活用状況等調査結果（平成 29 年 6 月 12 日～16 日、11 月 13 日～11 月 17 日）
 ※学校給食で使用した野菜（いも類含む。）、豆類、果物・きのこ類の総野菜等品目数のうち県内産野菜等 品目数の利用割合

【産地表示を見て購入している人の割合】

● 「農産物は産地の表示を見て購入していますか。」



資料：平成 29 年度石巻市民食育アンケート調査

(3) 食の安全・安心

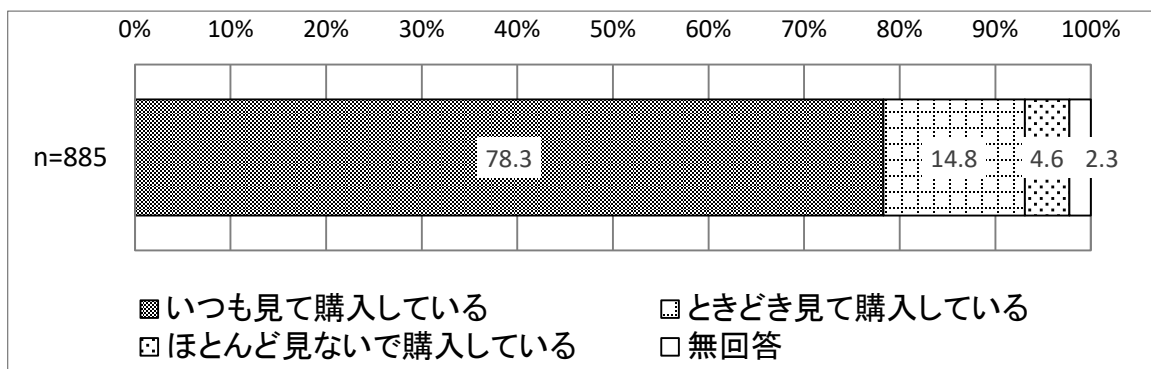
○購入時に賞味期限（消費期限）の表示を見ている人は、「いつも見て購入している」「ときどき見て購入している」を合わせた、意識して『見て購入している』人は93.1%と9割以上となっています。

○購入時に食品添加物の表示を見ている人は、「いつも見て購入している」「ときどき見て購入している」を合わせた、意識して『見て購入している』人は59.3%と約6割にとどまっています。

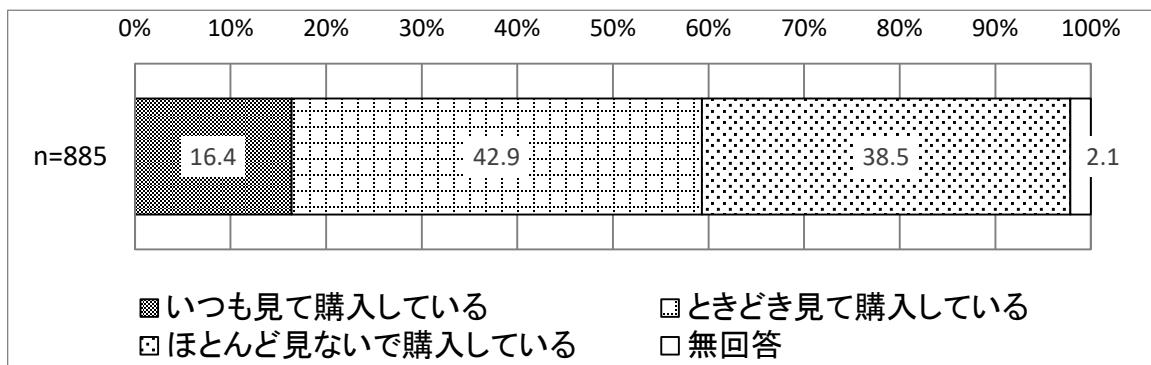
○栄養成分表示を参考にしている人は、4割と半数以下となっています。

【食品表示を見て購入している人の割合】

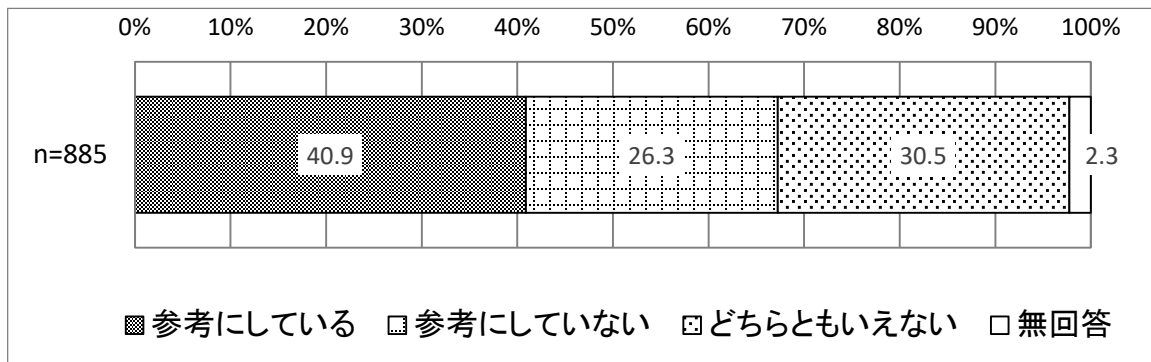
● 「賞味期限（消費期限）の表示を見て購入していますか。」



● 「食品添加物の表示を見て購入していますか。」



● 「食品中のカロリー（エネルギー）や塩分などの栄養成分表示を参考にしていますか。」



資料：平成29年度石巻市民食育アンケート調査

3 目標値の達成状況について

第2期計画において設定した目標値の達成状況について、以下の区分で評価を行いました。

目標達成状況をみると、目標達成された項目・改善された項目・改善傾向にあった項目を合わせて25.1%、ほぼ変化なしが40.5%、悪化傾向にあった項目が28.1%でほぼ変化なしと悪化傾向が目標達成、改善を上回っています。

「食習慣と健康」では、乳児期・幼児期の3食食べる子や甘い飲み物を毎日飲む子の割合が改善された一方で、適正体重の子や野菜を食べない子、学童期・思春期の朝ごはんを食べる子の割合等で悪化傾向がみられました。

「食文化の継承」では、郷土料理を食べている割合は目標達成されましたが、孤食の割合は小中学生では変化なし、大人では悪化傾向がみられました。

「地産地消」では学校給食での地場産物の活用について改善されたものの、他はほぼ変化なしの結果でした。

「食の安全・安心」ではエコファーマー認定数やトレーサビリティ対応数については悪化傾向がみられました。

■達成状況の区分

区分	達成状況	項目数	割合
◎	目標達成	3	9.4%
○	改善 (平成24年現況値と目標値の差の6割以上の改善)	3	9.4%
↗	改善傾向 (平成24年現況値と目標値の差の3割以上6割未満の改善)	2	6.3%
→	ほぼ変化なし (↗と↘の間の値)	13	40.5%
↘	悪化傾向 (平成24年現況値と目標値の差の3割以上の悪化)	9	28.1%
—	(評価不能)	2	6.3%
	全体	32	100.0%

■第2期計画の目標達成状況

(1) 食習慣と健康

大目標 ★ 栄養のバランスを考えた食事をしよう ★

対象	目標	指標	前期計画実績 平成24年	第2期 目標値	現状値 平成29年	達成状況
①乳児期・幼児期	おなかがすくリズムをつけよう	3食食べる子の割合を増やす	(3歳) 96.8% ◎	98%	97.7%	○
		適正体重の子の割合を増やす	(3歳) 94.5% ◎	95%	89.6%	↘
	おやつを選び方を考えよう	甘い飲み物を毎日飲む子を減らす	(3歳) 46.2% ◎	42%	38.5%	◎
	野菜を食べよう	野菜を食べない子の割合を減らす	(3歳) 20.8% ◎	18%	28.8%	↘
②学童期・思春期	成長に見合った食事をしよう	肥満の子の割合を減らす	小5 (男) 18.3% (女) 13.7% 中2 (男) 14.3% (女) 13.1% ◇	17% 12% 12% 12%	18.0% 12.0% 12.5% 12.5%	→ ◎ ○ ↗
		朝ごはんを食べよう	毎日朝ごはんを食べる子の割合を増やす	小5 92.3% 中2 86.6% △	94% 87%	90.9% 83.9%
③青年期・壮年期	毎日の活動に見合った食事をしよう	自分の食事の適量をわかる人を増やす	71.3% ○	77%	62.3%	↘
		野菜や海藻を毎食食べる人の割合を増やす	32.2% ○	36%	25.0%	↘
		メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の割合を減らす(40~64歳)	31.6% ☆ 34.0%	25% 29%	30.1% 33.3%	→ →
④高齢期	毎日の活動に見合った食事をしよう	メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の割合を減らす(65歳以上)	35.0% ☆ 34.6%	30% 29%	34.4% 32.4%	→ ↗
		BMI ≥ 25の割合を減らす				

◎:平成24年度3歳児健診 ◇:平成24年度宮城県児童生徒の健康実態調査

△:石巻市食育アンケート調査(学校) ○:平成24年度市民健康調査

☆:平成24年度市特定健診結果(国保データ管理システム)

(2) 食文化の継承 (最優先項目)

大目標 ★ 石巻の豊かな食をみんなで伝えよう ★

目 標	指 標	前期計画実績 平成 24 年	第 2 期 目標値	現状値 平成 29 年	達成状況
楽しく食事をしよう	家族や友人と週 1 回以上食事を する人の割合を増やす	92.5% ○	95%	91.0%	↘
	朝食を子どもたちだけで食べる割合を減らす	小5 58.4% 中2 70.4% △	50% 68%	60.5% 70.9%	→ →
食物や人に感謝しよう	学校給食の残食を減らす	73.5 g □	60 g	75.6 g	→
郷土料理や行事食に親しみ大切にしよう	郷土料理を食べている人の割合を増やす	34.7% ○	37%	38.6%	◎

○:平成 24 年度市民健康調査

△:石巻市食育アンケート調査(学校) □:石巻市教育委員会調査

(3) 地産地消 (最優先項目)

大目標 ★ 石巻の豊かな食をみんなで楽しもう ★

目 標	指 標	前期計画実績 平成 24 年	第 2 期 目標値	現状値 平成 29 年	達成状況
生産から消費までの過程を理解しよう	児童生徒と産業従事者との体験学習を通じた交流を図る学校数を増やす	38 校 □	45 校	36 校	→
地場産物を活用しよう	学校給食での地場産物の活用を増やす	24.1% ◆	30%	28.9%	○
	産地表示をいつも見て購入している人の割合を増やす	農産物: 41.5% 水産物: 45.3% ○	70% 70%	41.2% —	→ —

□:石巻市教育委員会調査 ◆:平成 24 年度学校給食における地場産物の活用状況調査

○:平成 24 年度市民健康調査

(4) 食の安全・安心

大目標 ★ 石巻の豊かな食をみんなで守ろう ★

目 標	指 標	前期計画実績 平成 24 年	第 2 期 目標値	現状値 平成 29 年	達成状況
食品、食材を選択する 力を身につけよう	賞味期限、添加物の表 示を見て購入する人を 増やす	賞味期限：78.0% ○ 添加物：15.6%	82% 22%	78.3% 16.4%	→ →
	団体や行政で開催する 講習会の開催回数を増 やす	1回 ● 17回 ★	5回 20回	— 17回	— →
安全な食材・食品を提 供しよう	エコファーマー※の認 定数を増やす	197人 ▽	200人	52人	↘
食材の安全性につい て情報を提供しよう	出荷数に占めるトレー サビリティ※対応数を 増やす	農産物：38品目 ▲	38品目	28品目	↘
		水産物：2品目 ◆	5品目	2品目	→

※ エコファーマー：堆肥等の有機物を利用した土づくりや減化学肥料栽培、減農薬栽培等の「環境にやさしい栽培」に積極的に取り組んでいる農業者

※ トレーサビリティ：食品の生産・流通などの情報について、消費者がいつでも栽培等生産履歴を把握できる仕組み

○：平成 24 年度市民健康調査 ●：東北農政局(出張講座回数) ★：健康部健康推進課調査

▽：宮城県農林水産部農業園芸環境課 ▲：JA(営農企画課・畜産課)

◆：宮城県漁業協同組合

4 事業の取組成果と課題について

第3期の計画策定にあたって、第2期の取組内容を検証し、取組の成果や取り組んでいく中でみられた問題点や課題等を第3期計画に活かしていくため、事業ごとの取組内容と成果、課題をまとめました。

(1) 食習慣と健康 <栄養のバランスを考えた食事をしよう>

【乳児期・幼児期】

目標：おなかがすくリズムをつけよう

各種教室については、おおむね予定どおり実施され、3食食べている児の割合が5年間9割を維持できているなど成果が出ています。適正体重の子を増やすための指導については、実施効果は出ているものの、面談対象者の拡大が課題となっています。

課題としては、これまでアプローチできていない層に向けての取組が挙げられます。

◇規則正しい生活リズムで3食きちんと食べることの大切さを啓発します

事業名	取組成果	課題
離乳食教室・乳幼児健診・親子食育教室・栄養相談・出前講座・各種健康教室	講話や個別相談を実施し、生活リズムや3食きちんと食べることの大切さの意識付けができた。その結果、乳幼児健診では3食食べている児の割合が5年間9割を維持できている。	親の生活背景の変化に応じた支援や、無関心期の人の行動変容が困難である。
子育て支援センターにおける栄養教室	講話や個別相談を実施し、生活リズムや3食きちんと食べることの大切さの意識付けができた。	子育て支援部局との連携がとれなかった。
参観時の食育講話・親子食育教室・料理教室	生活リズムや3食きちんと食べることの大切さの意識付けができた。	依頼が少ないため、実施する機会も少ない。
弁当及び給食時の指導・クッキング活動	年間指導計画を策定し、指導するとともに、家庭に向けても調査を実施した上で、健康と食について相互理解を図る機会を設けた。	家庭との連携が継続的に行われることが望まれる。
保育参観日・保育所入所の説明会・個別教育・個別相談	栄養指導の依頼があった保育所で講話をし、啓発が図られた。	依頼のある保育所のみでの実施に限られた。
健康だより・食育だより・食育かるた・保育通信・園だより	給食だよりで早寝・早起き・朝ごはんについて啓発が図られた。	今後も継続して実施する。
みやぎ食育コーディネーターによる食育活動(食育コーディネーター活動支援事業)	※コーディネーターの活動実績は県全体としてまとめているため、石巻市内での個々の取組状況が評価できない。	

◇おなかをすかせるための体を動かす遊びの大切さを啓発します

事業名	取組成果	課題
戸外遊び・体操「はやね・はやおき・あさごはん」	教師から幼児や保護者への啓発は十分に行うことができた。	おなかがすリズムをつける対象者が明確ではないため達成度が計れない。
健康だより・食育だより・保育通信・園だより	各保育所(園)において、運動事業を実施し、おなかをすかせるリズムづくりを啓発できた。	今後も継続して実施する。

◇子どもの食生活の実態把握をします

事業名	取組成果	課題
アンケートによる実態調査	乳幼児健診の問診票から、食生活の実態(野菜、甘い飲み物について等)を把握できた。	おなかがすリズムをつける対象者が明確ではないため達成度が計れない。

◇成長に見合った食事について啓発します

事業名	取組成果	課題
親子食育教室	限られた人数だが、成長に見合った食事について啓発できた。	依頼が少ないため、実施する機会も少ない。

◇適正体重の子を増やすための指導に取り組みます

事業名	取組成果	課題
特定給食施設指導(保育所等における肥満とやせの割合を減らすための取組推進を支援)保育所入所児童の個別栄養指導	個別指導後、生活改善等が図られた。医療につなげることができた。	面談対象者を拡大する。

目標：おやつ選び方を考えよう

各種教室については、おおむね予定どおり実施され、おやつとり方についての意識づけについて成果が出ています。

課題としては、各種教室や講話の実施機会が少ないことが挙げられます。

◇望ましいおやつとり方について啓発します

事業名	取組成果	課題
健康だより・食育だより・保育通信・園だより	望ましい食習慣についての啓発が図られた。	今後も継続して実施する。
望ましいおやつレシピ活用	親子料理教室や子育て支援センター等でのレシピ活用で、啓発が図られた。	NPO団体など関係団体との連携を図る。

事業名	取組成果	課題
参観時の食育講話・親子食育教室・栄養教室	保護者参観などを利用し、おやつのとおり方などの意識付けができた。	依頼が少ないため、実施する機会も少ない。
家庭教育学級	限られた人数だが、望ましいおやつのとおり方について啓発できた。	依頼が少ないため、実施する機会が少ない。
離乳食教室・乳幼児健診・親子食育教室・栄養相談・出前講座・各種健康教室	講話や個別相談を実施し、意識付けができた。	祖父母等への啓発が難しい。
子育て支援センターにおける栄養教室	講話や個別相談を実施し、望ましいおやつのとおり方について意識付けができた。	子育て支援部局と健康部の事業の目的が相違していた。

◇おやつとむし歯の関係について啓発します

事業名	取組成果	課題
健康だより・食育だより・保育通信・むし歯予防のチラシ・園だより	望ましいおやつのとおり方について啓発が図られた。	今後も継続して実施する。
歯科健診と家庭への指導・歯みがき教室・食後の歯みがき実践	昼食後の歯磨き指導と家庭への指導・連絡はすべての園で実施している。	家庭との連携が継続的に行われることが望まれる。
育児サークルにおける指導	限られた人数だが、おやつとむし歯の関係について啓発できた。	依頼が少ないため、実施する機会が少ない。
子育て支援センター・保育所・育児サークルにおける歯科教室・歯科相談	講話や口腔チェックを通して、おやつとむし歯の関係について意識付けができた。	継続して実施する。

目標：野菜を食べよう

各種教室については、おおむね予定どおり実施されていますが、開催機会増加のため、周知が必要となります。

◇望ましい野菜のとおり方について啓発します

事業名	取組成果	課題
離乳食教室・乳幼児健診・親子食育教室・栄養相談・出前講座・各種健康教室	講話や個別相談を実施し、望ましい野菜のとおり方について意識付けができた。	1歳6か月健診から2歳児歯科健診までの間で野菜が苦手な児が増加傾向にある。
子育て支援センターにおける栄養教室	講話や個別相談を実施し、望ましい野菜のとおり方について意識付けができた。	今後も継続して実施する。
参観時の食育講話・親子食育教室・料理教室	講話や実習を通して、望ましい野菜のとおり方について意識付けができた。	依頼が少ないため、実施する機会も少ない。
弁当及び給食時の指導・クッキング活動	菜園活動を通して、好き嫌いをなく野菜を食べる習慣を身につけることができた。	園での指導が家庭でも生かされるような継続した取組を実践する。

Ⅱ 石巻市の食をめぐる現状

事業名	取組成果	課題
保育参観日・保育所入所の説明会・個別教育・個別相談	野菜の大切さについて啓発が図られた。	依頼のある保育所での実施。
健康だより・食育だより・食育かるた・保育通信・園だより	野菜の大切さについて啓発が図られた。	今後も継続して実施する。
お弁当作り	平成 26 年度以降未実施	

【学童期・思春期】

目標：成長に見合った食事をしよう

各種教室については、おおむね予定どおり実施されています。

課題としては、教室等で得た知識の実践力の育成と教室の継続が挙げられます。

◇成長に見合った食事と望ましい間食について啓発します

事業名	取組成果	課題
小学校食育学習・親子食育教室	年間計画の中で、管理栄養士を招いての出前授業や栄養教諭の授業実践を行い、栄養バランスのとれた食事について理解を深めた。	習得した知識等を実行する実践力の育成が必要である。
親子食育教室・出前講座・各種健康教室	講話や実習を通して、望ましいおやつのとりに方について意識付けができた。	継続した支援が少ない。
特定給食施設指導(学校給食センター等における肥満とやせの割合を減らすための取組推進を支援)	学校給食センター等の健康増進を目的とした給食施設に対して、個別や集団指導により利用者の身体状況(肥満とやせ)の評価の必要性について指導・助言を行った結果、全施設で評価が行われている。	今後も継続して実施する。

◇食に関する指導に取り組みます

事業名	取組成果	課題
教科・特別活動・学校給食の時間等を利用した指導	年間指導計画に則って指導を行った。	習得した知識等を実行する実践力の育成が必要である。

目標：朝ごはんを食べよう

各事業については、おおむね予定どおり実施されており、朝ごはんの大切さの啓発が図られていますが、目標指標の達成には至っていません。

課題としては、関係団体との連携が挙げられます。

◇朝ごはんの大切さについて啓発します

事業名	取組成果	課題
5ADAY(ファイブ・ア・デイ) [※] としての売り場での表示	イオンでは 2001 年より継続して取り組み、現在に至る。	行政の取組との連動が望まれる。
学校・各種研修会等への講師派遣(出張講座)、食事バランスガイドの普及	東北農政局ホームページ、食育健康フェスティバルでパネル展示、パンフレット配布を行い、食事バランスガイドについて普及に努めた。	組織再編のため出張講座は平成 27 年9月まで対応。今後とも継続した取組が必要
親子食育教室・出前講座・各種健康教室	親子料理教室や子育て支援センター等で、朝ごはんの大切さについて啓発が図られた。	NPO団体など関係団体との連携を図る。
給食だより・学校だより等	学校だより等で朝ごはんの大切さを意識付けした結果、小・中学生の約 80%が朝食を食べている。	年齢が上がるにつれて増加する欠食児の割合を減らす取組の必要がある。

※ 5ADAY (ファイブ・ア・デイ) : アメリカからはじまった、健康増進のために 1 日に 5～9 サービングの野菜と果物を食べましょうという国民健康増進運動
 サービング：食事の提供量の単位の略で具体的には、下記のとおりです。
 ○野菜の 1 サービングは、70 グラムで、1 日に 5 サービング 350 グラムを目安とします。
 ○果物の 1 サービングは、100 グラムで、1 日に 2 サービング 200 グラムを目安とします。

◇食に関する指導に取り組みます

事業名	取組成果	課題
教科・特別活動・学校給食の時間等を利用した指導	年間計画の中で、管理栄養士を招いての出前授業や栄養教諭の授業実践を行い、栄養バランスのとれた食事について理解を深めた。	習得した知識等を実行する実践力の育成が必要である。

【青年期・壮年期】

目標：毎日の活動に見合った食事をしよう

各事業については、おおむね予定どおり実施されていますが、目標指標の達成には至っていません。

課題としては、青年期・壮年期への働きかけの難しさが挙げられます。

◇自分の食事の適量バランスについて具体的に情報提供します

事業名	取組成果	課題
食改普及講習会	調理実習の時、計量して自分に合った食事量を目で見て食べることにより、意識付けにつながった。	今後も継続して実施する。
雑誌・チラシ等でのメニュー提案	にぎわい東北(食堂)として地元の食材を地元の学生と一緒に料理提案し、実施した。	行政の取組との連動が望まれる。
地域の研修会等への講師派遣(出張講座)、食事バランスガイドの普及	出張講座 平成 26 年度1件 東北農政局ホームページ、食育健康フェスティバルでパネル展示、パンフレット配布を行い、食事バランスガイドについて普及に努めた。	組織再編のため出張講座は平成 27 年9月まで対応。今後とも継続した取組が必要
健康教室・ヘルシー栄養セミナー・保健推進員研修会・食改研修会・出前講座	講話や実習を通して、食事のバランスについて意識付けができた。	青年期・壮年期への働きかけが少ない。

◇適塩の方法について啓発します

事業名	取組成果	課題
健康教室・ヘルシー栄養セミナー・保健推進員研修会・食改研修会・出前講座	減塩アンケートや尿中塩分測定を実施し、実際の塩分摂取量や摂取傾向を理解してもらうことで、適塩に向けての意識付けができた。	青年期・壮年期を対象とした実施が少ない。
食改普及講習会	みそ汁の薄味が定着化してきた。	今後も継続して実施する。

◇飲み物の糖分量や望ましい飲み方を情報提供します

事業名	取組成果	課題
健康教室・ヘルシー栄養セミナー・保健推進員研修会・食改研修会・出前講座	実際の糖分量を示し、講話や展示を通して、嗜好飲料の望ましい飲み方の情報提供ができた。	若い世代(20代～30代)で甘い飲み物を毎日飲む人の割合が高い。
食改普及講習会	子育て支援センター等で、望ましい水分補給について啓発が図られた。	今後も継続して実施する。

◇野菜や海藻の摂取の方法を情報提供します

事業名	取組成果	課題
食改普及講習会	すぐのできる野菜料理を提供し、野菜摂取についての意識付けができた。	今後も継続して実施する。
健康教室・ヘルシー栄養セミナー・保健推進員研修会・食改研修会・出前講座	講話等において、野菜の目標量(350g)を示した。また、市内店舗にも啓発チラシを掲示した。	若い世代(20代～30代)の野菜摂取量が少ない。

◇バランスの良い食生活を啓発します

事業名	取組成果	課題
健康教室・ヘルシー栄養セミナー・保健推進員研修会・食改研修会・出前講座	講話や実習を通して、食事のバランスについて意識付けができた。	青年期・壮年期への働きかけが少ない。
特定給食施設指導(事業所等における肥満とやせの割合を減らすための取組推進を支援)	事業所等の健康増進を目的とした給食施設に対して、個別や集団指導により利用者の身体状況(肥満とやせ)の評価の必要性について指導・助言を行った結果、全施設において評価が行われている。	今後も継続して実施する。

【高齢期】

目標：毎日の活動に見合った食事をしよう

各種教室については、おおむね予定どおり実施され、主菜、副菜の量と食べ方について啓発が図られ、食事のバランスについて意識付けができています。

◇バランスの良い食生活を啓発します

事業名	取組成果	課題
食改普及講習会	調理実習を通して、主菜、副菜の量と食べ方について啓発が図られた。	今後も継続して実施する。
出前講座・各種健康教室	講話等を通して、食事のバランスについて意識付けができ、介護予防につながった。	今後も継続して実施する。

(2) 食文化の継承 <石巻の豊かな食をみんなで伝えよう>

目標：楽しく食事をしよう

市内小学校での「食育学習指導」と「弁当及び給食時間の指導」については、予定どおり実施され、食に関する興味関心を高めることができていますが、目標指標の達成には至っていません。

課題としては、小学校での時数の確保、各種教室等での参加者が限定的であることが挙げられます。

◇家族や友達と一緒に食べることによる、食べる喜びや楽しさを育てます～みんなで食べると おいしいね～

事業名	取組成果	課題
食育学習指導(市内小学校)	食に関する指導計画のもと、工夫を凝らした指導を実践し、興味関心を高めることができた。	時数の確保が年々難しくなっている。
弁当及び給食時間の指導	食に関する指導計画のもと、工夫を凝らした指導を実践し、興味関心を高めることができた。	今後も継続して実施する。
親子食育教室・乳幼児健診・出前講座・各種健康教室	小学校や子育て支援センターと連携し、食事を楽しむ機会を提供した。	関心がある人しか参加しない。

◇食事のマナーがきちんと身につくよう啓発します

事業名	取組成果	課題
弁当及び給食時間の指導	担任や栄養教諭、食育担当教員が工夫を凝らしながら、マナーの指導を行い、普及啓発が図られた。	家庭との連携は不可欠であるが、学校だけが担ってしまいがちである。
健康だより・食育だより・保育通信・食育かるた・絵本・園だより	食事のマナーについての啓発が図られた。	今後も継続して実施する。
親子食育教室・出前講座	マナーについては、啓発が図られなかった。	限られた時間内でマナーについての内容を取り入れることは難しい。

目標：食物や人に感謝しよう

エコクッキング、出前講座については、ほぼ予定どおり実施され、地元農産物への関心の高まり等、成果が出ています。「環境保全リーダー育成講座実施事業」は、受講希望者の減少により、平成27年度以降実施されていません。

食べ物の大切さや人に感謝する心については、啓発していくことの難しさが課題として挙げられます。

◇材料を無駄なく料理します（ごみの減量化）

事業名	取組成果	課題
エコクッキング・EM ぼかしづくり・農産加工品講座	環境、地元農産物への関心が高まった。	今後も継続して実施する。
出前講座・エコクッキング	残りの野菜等、食材を無駄なく使い切ることの大切さを伝えることができた。	限られた回数での実施だったため、地域が限定された。（エコクッキング）
環境保全リーダー育成講座実施事業	平成 26 年度実施時には、多くの受講生が環境に配慮した食料消費についての専門知識や技術を習得することができた。	平成 27 年度以降、受講希望者の減少により事業が中断している。

◇食べ物の大切さや人に感謝する心を育てます

事業名	取組成果	課題
弁当及び給食時間の指導・栽培体験活動	食に関する指導及び技術科の指導において年間計画に則って指導した。	今後も継続して実施する。
親子食育教室	食べ物の大切さや人に感謝する心については、啓発が図られなかった。	限られた時間内で食べ物の大切さや人に感謝する心についての内容を取り入れることは難しい。
そば粉の栽培及び調理	地元の転作作物を種蒔きから調理まで全ての工程を手掛けることができる貴重な体験になっている。継続して小学校への食育活動ができています。	学校行事とのかねあいが難しいが、種蒔きの日にちなみ打ち合わせはしっかり行っている。

目標：郷土料理や行事食に親しみ大切にしよう

各種講習会・教室、保育所給食・学校給食については、ほぼ予定どおり実施されており、「郷土料理を食べている人の割合を増やす」という目標指標は達成されています。

◇郷土料理や行事食について学ぶ機会を設けます

事業名	取組成果	課題
食改善講習会・親子食育教室	調理実習を通して啓発が図られた。	関係団体と協力して実施する。
郷土料理・行事食料理教室	地域の文化や伝統に関わる食体験を実践できた。	対象者の要望や年間計画にあわせての依頼があるため、不定期の開催となってしまう。
季節に合わせた行事食の体験	行事食の提供（年7回）を行うことができ、行事食について学ぶ機会を設けることができた。	今後も継続して実施する。

Ⅱ 石巻市の食をめぐる現状

事業名	取組成果	課 題
地域の農業者の直売所、農家レストラン等起業家の研究	主に市外の直売所等への視察研修を行うことで、農産加工や経営について情報収集し、自己研鑽することができた。	会員の高齢化に伴い、視察研修の参加者が少なくなっている。

◇郷土料理や行事食を献立に取り入れます

事業名	取組成果	課 題
保育所給食・学校給食	郷土料理や行事食の提供することができた。	今後も継続して実施する。

(3) 地産地消 <石巻の豊かな食をみんなで楽しもう>

目標：生産から消費までの過程を理解しよう

「JA バンクアグリサポート事業」については、計画どおり実施されています。「児童生徒と産業従事者との体験学習」でも7割程度の学校で実施され、食農教育に関するテキスト・副読本を小学校42校に1,790冊を配布しています。

◇野菜の栽培などを通して、収穫の喜び、それを味わうことの楽しさを体験できる機会を設けます

事業名	取組成果	課題
JA バンクアグリサポート事業 (さつまいも苗播付指導:保育所他)	新設の保育所からの依頼もあり、継続した活動ができている。 小学校・保育所へのパケツ稲作り普及・指導 小学校(総合学習)への野菜栽培指導 一般消費者を対象とした農園の運営	現在行っている保育所などの他に新たな依頼もあるが、全ての依頼に応えられず、お断りする場合もある。実施には経費が必要(学校次第)
野菜・そば粉の体験学習・クッキング活動	各地区女性部で毎年、様々な活動を行っている。 保育所への野菜栽培指導	若い世代にも伝えていきたい。 一時的な指導にとどまっている。
市民農園普及事業	平成26年度から30年度までのべ82人(8区画)が利用	年度によって空き区画が出てしまうため、追加募集が必要となる。

◇児童生徒と産業従事者との体験学習を通じた交流を図ります

事業名	取組成果	課題
産業従事者との体験学習	36校(全体の69%)で農業・漁業体験を実施し、生産についての理解を深めた。	学校近くに従事者が不在の学校の体験場所の確保が必要となる。

◇食農教育に関する情報提供をします

事業名	取組成果	課題
テキスト・副読本配布	石巻市、東松島市、女川町の小学5年生へ配付し、情報提供を行った。(42校1,790冊)	今後も継続して実施する。
教育ファームの普及・情報提供	東北農政局ホームページ、パンフレット配布により情報提供した。	農林漁業体験の取組支援も含め、普及や情報提供を継続する。

目標：地場産物を活用しよう

地場産物の積極的な取り入れについては、ほぼ予定どおり実施されていますが、「健康教室、食改研修会、保健推進員研修会、出前講座」と「環境保全リーダー育成講座実施事業」については、価格の関係や参加者の減少等が課題になっています。

紹介・PRについても、おおむね予定どおり実施されていますが、「地元水産物水産加工品の展示即売会」では、地元石巻との取組を強化していく必要があります。

「地場産物を活用した新商品や新メニューの開発支援」については、目標を大きく上回る実績となっています。

◇地場産物を積極的に取り入れます

事業名	取組成果	課題
中学生のためのお魚料理教室	市内中学2年生を対象に、料理教室を通じて魚への理解を深めた。	今後も継続して実施する。
地産地消クッキング	小学校等の調理実習で、地産地消について啓発が図られた。	時間の確保が難しい。
農産物産直コーナー・販売所の設置	平成 27 年 11 月イトーヨーカドー、平成 29 年6月元気いちばにインショップを開設し、石巻市内は直営3店舗、インショップ4店舗となった。	学校給食・直売所とも取扱高が減少している。
水産売り場での対面鮮魚コーナー設置	地元若手漁師「フィッシャーマンジャパン」対面コーナーを設置して展開し、地場産物の積極的活用が図られた。	他漁港組合と連動した地元鮮魚種・取組拡大が必要となる。
米や野菜類の地場産活用推進事業	JAの様々なイベントや料理教室事業などで地元食材の美味しさを伝えることで直売所の利用につながっている。 直売所で地産地消デーを開催し、試食やレシピを提供している。	地元食材をさらに PR していきたい。 消費者への PR 不足
保育所給食・学校給食	対応できる地元業者に依頼し、可能な範囲で地場産物を取り入れることができた。	給食に適するためのしぼりがあることと、1回に使用する量が多いため、対応できる地元業者が限られている。
健康教室、食改研修会、保健推進員研修会、出前講座	地場産物を積極的に活用できなかった。	価格、業者の関係により、地場産物を調達できない。
環境保全リーダー育成講座実施事業	平成 26 年度実施時には、多くの受講生が環境に配慮した食料消費についての専門知識や技術を習得することができた。	平成 27 年度以降、受講希望者の減少により事業が中断している。
エコクッキング	調理材料の一部に取り入れることができた。	予算の関係もあり、全ての材料を地場産物で揃えることは難しかった。
鯨肉頒布事業	毎年 3,000kgの鯨肉を市民に頒布することができた。	今後も継続して実施する。

◇石巻市地産地消推進店等の紹介・PR をします

事業名	取組成果	課題
ホームページへの掲載	市のホームページ及びパンフレット配布、イベント等により地産地消推進店の紹介・PR を行うことができた。	ホームページのタイトル等の修正の検討が必要

◇地元食材の紹介・PR をします

事業名	取組成果	課題
消費者交流会(直売所主体) ・米消費拡大運動(幼稚園へのカレーライス提供他) ・毎月7日は菜花の日(直売所・石巻地区) ・地元産大豆を使った豆腐作り教室	左記の事業の他にもJAの直売所でのこめ粉の試食提供や市の夏祭りなどのイベントに出展し、PR できた。	以前から行っている食育事業については継続して取り組んでいるが、新規の食育事業については他の事業と重なってしまい、対応できない場合もある。
毎月第1土曜日、うまいもの宮城のタイトルで農産物の特設売場の設置と販売	イオンのじもの日、宮城うまいもの市、にぎわい東北(食堂)と地元食材取組強化を実施し、PR できた。	行政の強化設定日と自店の設定日が連動していない。
地元水産物水産加工品の展示即売会	宮城・女川漁港とタイアップした試食会を実施し、PR できた。	今後、地元石巻との取組を強化していく必要がある。
食材をテーマにしたイベント	いしのまき大漁まつり・石巻かきまつりを実施し、PR できた。	今後も継続して実施する。
地場産物を活用した新商品や新メニューの開発支援	・新商品開発件数 平成 26 年度 目標: 1 件 実績: 11 件 平成 27 年度 目標: 3 件 実績: 44 件 平成 28 年度 目標: 2 件 実績: 24 件 平成 29 年度 目標: 5 件 実績: 18 件 平成 30 年度 目標: 5 件 実績: 0 件 (平成 30 年5月末現在)	今後も継続して実施する。

(4) 食の安全・安心 <石巻の豊かな食をみんなで守ろう>

目標：食品、食材を選択する力を身につけよう

各種研修会については、おおむね予定どおり実施されていますが、参加者の増加が課題となっています。

◇食品表示について学ぶ機会を設けます

事業名	取組成果	課題
品目研修会	継続して実施し、食品表示について学ぶ機会を設けることができた。	毎年開催しているので参加者が少なくなってきた。
学校・各種研修会等への講師派遣	平成 27 年から未実施	平成 27 年 4 月の食品表示法制定に伴い消費者庁及び県が担当している。
保健栄養学級・食改研修会	講話を通して、食品表示について、住民の意識向上につながっている。	例年どおりの実施で回数を増やすことができない。

◇食の安心・安全に関する情報提供をします

事業名	取組成果	課題
鳥インフルエンザ・SSE・トレーサビリティ制度についての情報提供、講師派遣	未実施	県担当に移行
テキスト・副読本配布	石巻市、東松島市、女川町の小学 5 年生へ配付し、情報提供できた。(42 校 1,790 冊)	今後も継続して実施する。

目標：安全な食材・食品を提供しよう

エコファーマーについては、高齢化に加え、5年毎に計画の提出・認定の手間等から、認定者が減少しています。

◇エコファーマーを普及推進します

事業名	取組成果	課題
環境保全米の作付け(CO ₂ 削減の取組他)	最終実績面積 (目標面積:平成 27 年まで 4,420ha 平成 28 年からは 3,700ha) 平成 26 年 2,810ha 平成 27 年 2,880.2ha 平成 28 年 2,560.8ha 平成 29 年 2,215.0ha 上記のとおり実施し、推進普及を図ることができた。	水田の雑草が問題となっている。 難防除雑草が多発している。
農家への啓発	認定者数(石巻管内) 平成 26 年度末 126 人 平成 30 年 5 月現在 51 人	高齢化に加え、5年毎に計画の提出・認定の手間等から、認定者が減少している。

◇食料の安全・安心に努めます

事業名	取組成果	課題
管内直売所での販売・PR・宮城県協同組合こんわ会(JA中央会・森林組合・生協・日専連・漁協)の方針	継続して実施し、食料の安全・安心についてのPRができた。	今後も継続して実施する。

目標：食材の安全性について情報を提供しよう

食の安全・安心管理については、事業者が主体となった取組であり、市としての支援のあり方を検討していく必要があります。

放射能検査については、復興期間終了後の財源確保が課題となっています。

◇食の安全・安心管理を推進します

事業名	取組成果	課題
トレーサビリティ対応	イオンでは 2002 年から国内産牛肉の生産者履歴開示となり、国内産牛肉安全確認システムを導入したことで、安全管理に努めることができた。	トップバリュ(PB)商品・安全について調べるシステムを構築している。(インターネット検索)
ノロウイルスの検査体制の充実を図り、生カキの安全性を確保	9月末から10月初旬まで毎週1回かきのノロウイルス検査を実施し、安全確保に努めている。	海の調査の報告が得られない等、県との連携がとれていない。
みやぎ食品自主管理登録認証制度の活用促進	市内9事業者(食肉加工含む。)で活用できた。	今後は厚生労働省の全国統一の認証制度が義務化の流れとなっている。

◇放射能に関する情報を提供します

事業名	取組成果	課題
放射能検査の実施	平成 24 年度から実施 累計 23,171 検体を検査し、安全性を図った。	復興期間終了後の財源確保

